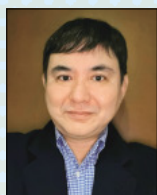




出川昌人 (イギリス校 1976年卒)

福井県から英国のアトランティック・カレッジへ留学。そのまま英国の大学へ進学。卒業後は政治・外交の研究をブルッキングズ研究所(ワシントンDC)などで行う。その後、日本に進出を始めた外資系の金融機関に勤務。30年間の資産運用業でのキャリアの中で4回転職。最後の2社では社長として日本法人の立て直しに従事。58歳で一旦引退のあとは、時間の半分以上をボランティアとして運用業界への貢献と地方の高校生への奨学金集めに、残りの半分で海外企業3社の社外取締役やアドバイザーを務める。



高野雅永 (イギリス校 1979年卒)

慶應義塾大学商学部に進学。1984年から1997年まで山一証券のロンドン現地法人や経済研究所などに勤めた後は、外資系の大手証券会社や運用会社などを経て、2016年から英国の独立系運用会社マラソン・アセット・マネジメントの東京駐在事務所の代表として投資先の日本企業とのエンゲージメント(株主として建設的な対話を行うこと)や議決権の行使を担当。現在、UWC日本協会監事、UWC日本卒業生会副会長を務める。



工藤絵理 (カナダ校 1983年卒)

上智大学比較文化学部に進学。米国コロンビア大学大学院で政治学修士号を取得。1993年から2017年まで国連世界食糧計画(WFP)にて、10カ国余で勤務。紛争や災害被災地、発展途上国において、食糧による緊急支援、学校給食や母子健康向上のための栄養改善事業などに従事。食糧の直接的な配布に加え、食糧支援を通じたインフラや物流システムの構築、教育環境の強化、社会保障制度の補完などにも注力。うち、2002年から2003年は、国連平和維持活動(PKO)局に外向。コンゴ民主共和国で、和平交渉による紛争解決に携わる。



楡木祥子 (イギリス校 1988年卒)

筑波大学で工業デザインを専攻し、社会性のあるデザインに興味を持つ。建築設計を5年間、その後、義肢装具士になるため、国立障害者リハビリテーションセンター学院に進学。臨床で数年勤めた後、アイスランドの義肢メーカー Ossur Japan代表。3年前に筑波大学社会人大学院でMBA-IBを取得。最近ではスポーツ義足をメディアで見る機会が増え、義肢への理解が時代とともに変化していると感じている。



島田和夫 (カナダ校 1993年卒)

1996年ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス卒業後、三菱商事に入社。メディアビジネスにおける国際的な事業展開、コンテンツ流通を通じた日本と世界の理解促進を目指す。パイアコム・ジャパン戦略企画担当バイスプレジデントを経て、2010年ユニバーサルミュージックグループ日本法人の執行役員に就任。世界で音楽配信のデジタル化が急速に進む中で、後れを取っていた日本の音楽業界の変革に取り組む。2020年よりAmazonデジタル音楽事業本部長に就任し、全体の事業運営とデジタルコンテンツの展開に従事。



山本武臣 (アメリカ校 1996年卒)

UWCにおける経験を通じて、日本のために国際的な舞台で働きたいという想いが強くなり、京都大学を経て外務省に入省。米国同時多発テロ事件への対応や国家安全保障戦略の策定を含む安全保障政策、首脳外交から草の根交流を含む日米関係、日米安全保障条約などの国際約束の締結・解釈・実施、国連安全保障理事会の改革や国連における決議の交渉、政府開発援助を含む国際協力などに携わる。国際連合日本政府代表部と在中国日本国大使館にも勤務。タフツ大学フレッチャースクール修了。



西島 健 (カナダ校 1997年卒)

筑波大学医学専門学群を卒業し、長野県佐久総合病院で医師として働き始めたのちに、国立国際医療研究センターで感染症、特にHIV感染症・性感染症の診療・研究に長年従事。その後、公衆衛生・行政の立場で感染症の予防に関わりたいと考え、厚生労働省を経て現在は世界保健機関(WHO)西太平洋地域事務局で、臨床、医療制度、研究開発などの分野を中心に新型コロナ対策を進めるとともに、薬剤耐性担当官として抗菌薬が効かない薬剤耐性菌の問題に対して、啓発教育、適正使用の推進、医療制度やサーベイランスの支援など、幅広く取り組んでいる。



春原頌子 (イギリス校 2000年卒)

国際基督教大学を卒業後、三菱商事に入社。営業部門にて中東や東南アジアにおける肥料資源ビジネスに従事。その後、UWCにて芽生えた、日本におけるグローバル人材の育成に関わりたいという想いから、企業における人材開発に従事すべく、人事部へ異動し、「入社8年目までに原則全員が海外経験を積む」とする若手の海外派遣制度策定を担当。米国三菱商事での実務研修を経て、現在は関西支社総務部人事総務チームリーダーとして、支社の人事総務施策や関西エリアの新卒採用を担当。加えて、地方創生を目的とした新規事業開発を人事面から支援している。



佐藤由記 (イギリス校 2001年卒)

英国ヨーク大学でPPE (Philosophy, Politics and Economics) 専攻。その後、ロンドン大学修士課程で国際経済学を学ぶ。卒業後、トヨタ自動車に入社。サプライチェーンと海外営業の部署にて「日本の良いものを海外へ」という想いでMade in Japanを広げる。かつてより興味があったビューティー&パーソナルケア業界で働きたいと日本ロレアルへ転職し、ダイヤモンドプランナーとして奮闘。「消費者とつながるマーケティングの仕事をしたい」と考え、ジョンソン・エンド・ジョンソンでの営業・マーケティングを経て、現在はユニリーバ・ジャパンにて一般消費財を扱うブランドマネージャーとして従事。

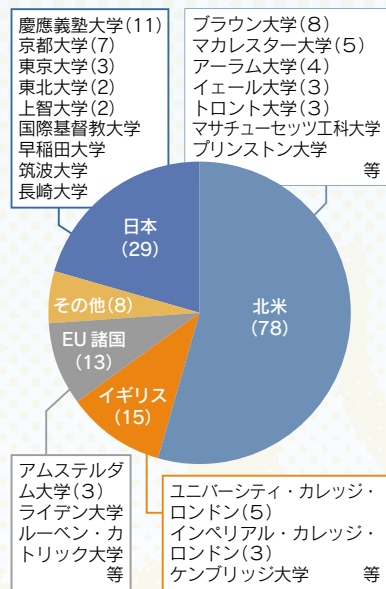


後山明香里 (ノルウェー校 2002年卒)

インドにあるチベット人学校でのギャップイヤーを経てオックスフォード大学でPhilosophy, Politics and Economicsを学ぶ。国際的な職場を求め米国投資会社にて勤務するうち、法律に興味を持ちニューヨーク大学法科大学院へ。卒業後は渉外事務所で訴訟、仲裁および内部調査案件を手掛ける。現在は、履歴チェックを通してより公正な社会を作ることとを使命とする米国スタートアップ企業Checkr, Inc.の訴訟・コンプライアンスシニアカウンセラー(社内弁護士)として新しい課題に取り組んでいる。

UWCからはばたく ——卒業生の多様な進路

卒業生の主な進学先



卒業生の主な就職先

